

平成26年度金山団地町内会定期大会 第2部 特別講演

西大寺ふれあいセンター

月日 平成26年4月20日(日)
講師 小野伸さん(犬島再発見の会)
演題 金山西縄文貝塚 発見報告



小野伸さんの金山西縄文貝塚発見は昭和55年(1980年)6月7日です。犬島貝塚発見の2ヶ月前です。西大寺小学校中世貝塚と金山西縄文貝塚の発見場所は直線距離にして30mです。その間に生活しているのが私たち金山団地です。また、西大寺小学校の生徒達の通学路です。通学路に縄文時代後期前半(約4,500年前)から縄文人が住んでいました。

金山団地からの情報発信です。

記事・写真提供：丸谷憲二さん

平成26年4月20日(日)

考古学研究会第60回総会研究集会での研究発表(岡山大学)

西大寺新発見の縄文時代貝塚

小野伸(犬島再発見の会)・遠部慎(北海道大学)・畑山智史(埼玉大学)・丸谷憲二(金山団地町内会)

はじめに

岡山市西大寺地区はこれまで縄文時代の遺跡がかなり希薄である、という認識である。そうした中、古くは沼田頼輔の調査した金山貝塚の存在が知られているものの、中世の時期も含まれ、先史時代の確拠は不明な部分が多い。そうした中、近接する地点で1980年に発見された金山西貝塚の再検討を行ったところ、縄文時代後期の貝塚である可能性が高いことが判明した。そこでその概要を報告し、さらに今後の展望を述べてみたい。

金山貝塚の概要

金山西貝塚は堤防工事の知人より情報提供を受けた小野が、1980年6月7日より2週間近く、現地を踏査し資料を収集した。そこで回収された考古遺物は土器(船元式~福田K2式中心)、石器(石鏃)、自然遺物(貝類)であった。貝類はヤマトシジミ、ハイガイ、ハマグリ、マガキなどが確認された。



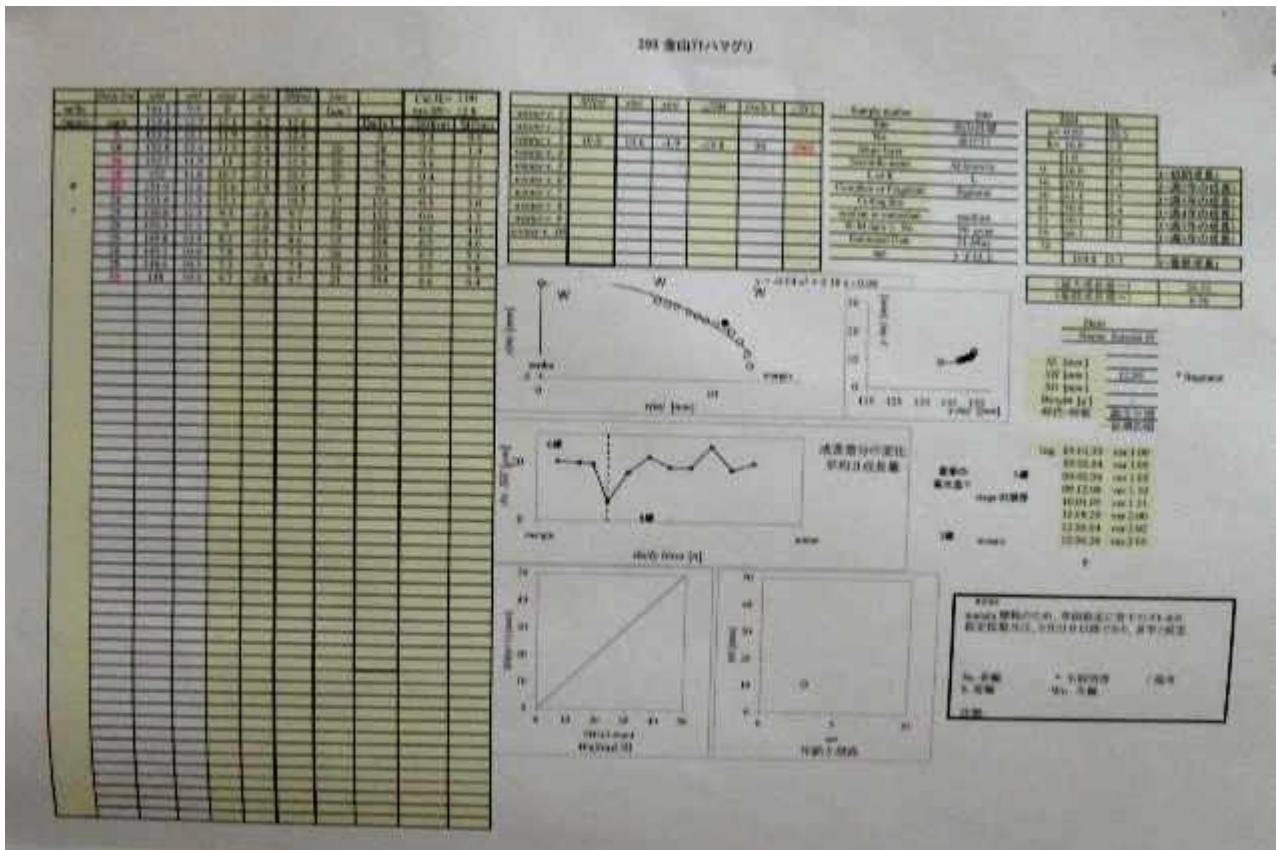
貝類の自然科学的検討

金山西貝塚で確認された考古資料を検討した結果、縄文時代に属する貝塚である可能性が高いことが判明したため、貝殻成長線分析が可能であった試料(ハマグリ)について、年代測定を行った。その結果、岡山市内の縄文時代後期のデータをお照らすと、縄文時代後期前半である可能性が高いことがわかった。

まとめ

金山貝塚は、縄文時代後期の貝塚であることが土器や年代測定の結果、明らかになった。金山西貝塚は、沼田の指摘していた地点と明確に異なり、岡山県東区において約半世紀ぶりに発見された縄文時代後期貝塚といえよう。これは分布の空白を埋めるだけでなく、新たなデータの蓄積も期待され、周辺の縄文貝塚の再検討も必要となるだろう。今後も検討を重ねていく予定だが、地域社会にも周知をはかるべく、各種団体と協力しうれい形作業を進めていきたい。

本発表にあたり、白石誠介先生、富岡善人先生、長嶋昌一氏、田嶋正憲氏、犬島貝塚調査保護プロジェクトチームの皆さまにはお世話になりました。



土器型式	中国地方	縄文中期		縄文後期
土器型式	近畿地方			
大群				
室木貝塚				
TERRA-051404a23	ハイガイ			
TERRA-051404a24	ハマグリ			
中瀬貝塚				
TERRA-051404a07	ハイガイ			
横田貝塚				
TERRA-051404a07	ハマグリ			
金山西				
PLD-24060	ハマグリ			

金山貝塚の実年代（斜線部 calbBC）
 Marine09にて校正。関連する貝塚データについてはすべて未公表

金山西縄文貝塚より発掘された貝殻



貝殻提供・・・小野 伸さん

金山西縄文貝塚より発掘された縄文時代の貝殻は、小野伸さんより町内会がお預かりしていましたが、平成26年6月12日に岡山学芸館高等学校の小松原昭 副校長先生に収納していただきました。今後、岡山学芸館高等学校での活用に期待しております。